

こども分科会について

1 設立趣旨

- ・誰もが住みやすい久留米の実現に向けて、育ちづらさを抱えたこどもや、育てづらさをかかえた親の子育てしやすい環境をつくる。
- ・こどもに関わる地域での支援者を増やし地域活動や団体活動の活性化と地域のつながりをつくる。

2 分科会構成

非掲載

3 これまでの取り組み＜令和7年4月から令和8年3月まで＞

第4期久留米市障害者計画である「支援が必要なこどもの発達支援と保育・教育の充実」に基づいて目標を定め、下記の取り組みを実施した。

(1) 目標

① 地域づくり・ネットワーク（団体活動紹介、事例検討、研修）

『意見交換会：こどもまんぷく』の継続開催をすることでつながり始めたネットワークを駆使し、フォーマル・インフォーマルな視点から子どもの事例検討や研修を行う。また、障害福祉の分野を超えて、こども全体の施策として取り組む必要性をこども担当所管課と共に考える機会を持つ。

② 切れ目のない支援体制づくり(施策番号 62)

『こどもの相談窓口コア会議』を開催し、各機関からこどもの情報について共有する場を設ける。福祉・教育・保健・医療分野と連携し、孤立しない子育て支援、早い時期からの適切な支援に繋がれるよう、相談機関が連携することで切れ目のない支援体制づくりを行う。

③ 支援者の質の向上・障害の理解啓発

久留米市内には、放課後等デイサービスは 71 事業所、児童発達支援事業所は 38 事業所(令和 7 年 5 月時点)あるが、事業所同士の繋がり強化や質の確保、障害特性への理解促進に向け、事業者協議会こども部会とも連携し、こどもに関わる関係機関や団体にも、障がい特性の理解に関する情報を提供し、障がいの

知識の普及と理解促進に取り組む。

④ 保育現場との連携の模索

保育との連携においては、子ども保育課との意見交換を行い、障害児の受け入れなどの実態について知るところから始めて、保育園・幼稚園協会・幼児教育研究所・久留米市介護福祉サービス事業所協議会こども部会などとの連携により、できるだけ早い時期から適切な支援をうけることができるための体制の強化に向けての準備を進める。

⑤ 学校教育現場との情報交換

教育現場との連携においては、スクールソーシャルワーカーとの連携強化は図れてきたものの、現場の教員の抱える困り感や、受け入れの現状などは把握できていない。学校教育現場や支援関係者(養護教諭・学校教育課特別支援コーディネーター)との意見交換を実施していく。

(2) 取り組み内容

①について:「こどもまんぷく」の開催

こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』を3回実施。

こどもに関わる関係者間のつながりの活性化やインフォーマルな活動団体の活性化につなげる、インフォーマルな社会資源の見える化を図ることを目的とした。

回数	年月日	内 容
第1回	R7.5.22	参加者：57名 ○各団体からのお知らせ ○ワールドカフェ：テーマ「居場所×障害」 1『居場所活動などどんなことが久留米で行われているの?』 2『課題はある?これからどんな風になっていったらいい?』 3『あなたができる次のこと』
第2回	R7.8.21	参加者：51名 ○各団体からのお知らせ ○事例報告(以前事例提供いただいた団体よりその後の報告) ○事例検討(じじっかより事例提供)
第3回	R8.1.22	参加者：57名 ○各団体からのお知らせ ○基調講演「10年後のくるめの未来を一緒に考えよう!」

		久留米市総合政策部総合政策課より ○グループワーク
--	--	------------------------------

②について：「こどもの相談窓口コア会議」の開催

昨年度より継続し、「こどもの相談窓口コア会議」を開催。

障害や発達面での支援が必要な子どもたちが、ライフステージにおいて切れ目なく相談できる体制づくりについて考えていく機会をつくることを目的として開催した。

回数	年月日	内 容
第 1 回	R7. 4. 24	参加者 20 名。 各団体の令和 7 年度の取り組み内容と強みを共有。
第 2 回	R7. 10. 23	参加者 24 名。 1『のぞえ総合心療病院、のぞえの丘病院の見学会』 2『幼保小の繋ぎの支援について協議』

参加団体：行政、民間、個人

③について：事業者協議会との連携を模索。こどもまんぷくやコア会議への出席を依頼した。

④について：久留米市保育協会、私立幼稚園協会、幼児教育研究所など保育・療育の要所を担う方々との意見交換を行った。

- ・私立幼稚園協会全体会委員
- ・保育協会全体会委員
- ・保育園協会会長
- ・幼児教育研究所
- ・保育協会園長会への参加

⑤ について：教育現場との連携強化を見越し、学校教育課教育委員会の特別教育支援チームとの意見交換及び、久留米市内小・中学校の養護教諭研修会に参加させていただき、東西南北エリアごとに意見交換会を行った。

(3) 成果

・「こどもまんぷく」の定期開催

「出会い・知り合い・つながり合おう」をテーマに、開催した 3 回ともに 50 名を超える方々に参加をいただくことができている。また、参加者同士の声掛けの中か

ら新規で参加いただく団体や、会を通して知り合った団体同士で研修会を合同で開催したり、見学会を企画されるなど、それぞれの団体同士で繋がり、広がりを持つことができおり、団体活動の活性化に貢献できている。

・「こどもの相談窓口コア会議」の開催

支援が必要な子どもたちのライフステージにおける切れ目ない相談体制づくりを目的として開催。それぞれの団体が持つ機能や強みを報告・共有した。昨年度は私立幼稚園協会、久留米市保育協会の方にも参加をいただくことができ、障害受容の入り口の場面における保護者の不安や、幼保小のつなぎの場面における丁寧な連携の必要性などの共通の課題を見出すことができた。

・保育協会、私立幼稚園協会との連携模索

幼保小の繋ぎの課題を把握するため、久留米市保育協会には基幹センターの紹介を行い、私立幼稚園協会とは引継ぎ時に感じている課題や困り感のヒヤリングを行った。その後、まんぷくやこども相談窓口コア会議にも参加して頂き、幼保小の繋ぎの支援について関係機関と検討することができた。

・学校教育現場との連携強化の第一歩

これまで教育委員会所属のスクールソーシャルワーカーとは意見交換の場を設けることができ、こどもまんぷくに参加いただくなどの交流が図れていたが、教育現場との交流には至れていなかった。今年度は、就学相談を担当する特別教育支援チームの方々と幼保から小学校へ入学する前に行われる就学相談の仕組みや流れ、変更点や、幼保小をつなぐ場面で活用される就学サポートノートなどについて情報交換を行うことができた。また、久留米市内の小・中学校の養護教諭研修会に参加し意見交換を行うことができた。より教育現場に近い、養護教諭との顔合わせを行うことができたことは、教育現場との連携構築において第一歩を踏めたと感じている。

(4) 課題

① こどもまんぷくの今後について

3年連続開催しているが、実際の支援や連携にどの程度反映されているか、定量的な把握が難しい。また、参加する民間団体・行政団体の規模や活動内容が多様であり、一つの研修テーマで全てのニーズに応えることが難しくなっている。

② 療育、保育現場との連携について

情報共有のばらつきや役割分担の不明確さから、就学前児童の保護者への説

明や支援方針のひきつぎについて、療育と保育のどちらが主となるかが曖昧になっている場合がある。

③ こども部会との連携

今年度はコア会議とまんぷくへ会長・副会長に出席していただいた。支援者の質の確保や情報共有のため、令和9年度にどのような連携を行うのか、部会の年間予定を共有しながら検討していくことが課題。

④ 学校教育現場との連携

養護教諭の研修会に参加して、外部機関との連携や情報共有に必要な時間を十分に確保しにくい状況があることや、情報共有の仕組みや優先順位に差があり、校内での対応が統一されない場合があることが分かった。

4 次年度の取り組み <令和8年4月から令和9年3月まで>

昨年度に引き続き、第4期久留米市障害者計画の基本目標である「支援が必要なこどもの発達支援と保育・教育の充実」に基づき、こども分科会では下記の取り組みを実施する。

(1) 目標

①地域づくり・ネットワーク

「こどもまんぷく」の継続開催を通じて、子どもに関わる関係機関・団体とのネットワークの充実を図り、障害や生きづらさを抱える子どもたちの多様化・複雑化する課題に対する支援のあり方について協議・検討を行う。また、関係機関相互の連携促進及びフォーマル・インフォーマルな社会資源の有機的な結び付きを推進する。あわせて、会の中で把握された地域の社会資源を可視化し、関係機関への周知と活用促進を図る。

②切れ目のない相談体制づくり（施策番号 62）

支援を必要とする子どもが、乳幼児期から学齢期、成人期への移行期に至るまで、必要な支援を途切れることなく受けられる地域支援体制の構築を目指す。そのため、行政、医療、保育、教育、療育等の関係機関による「こども相談窓口コア会議」を開催し、各機関の役割や課題を共有するとともに、今年度はQ-SACCS作成を通してこどもの支援のつながりの見える化を図っていく。

③障害の理解啓発と早期支援ネットワーク構築

- ・保育・教育との連携充実のために、障害特性の理解に関する情報を提供し、障がい知識の普及と理解促進に取り組む。更に、各団体が行う取り組みや研修案内を集約し発信するなど情報発信の方法を探る。
- ・保育・教育と福祉が連携して子どもを支えるための基盤づくりを進める。

(2) 取り組み内容

- ①こどもまんぷく：2 回開催
- ②こどもの相談窓口コア会議：3 回開催
- ③保育・教育機関・事業者協議会との連携

(3) 期待される成果

①地域作り・ネットワーク

関係機関・団体の連携が強化され、地域の社会資源の把握と活用が促進されることで、子どもを地域全体で支えるネットワークの充実につながる。

②切れ目のない体制作り

関係機関の役割理解と連携が深まり、ライフステージの移行期においても支援が途切れない相談支援体制の充実につながる。

③支援者の質の向上・理解啓発

支援者の専門性向上と障害理解の促進が図られ、地域全体の支援力の向上につながる。また、早期発見のネットワークが構築できることで、早く気づき、支え、途切れずつながる支援の実現が可能となる。